

おわりに

「科学の不思議に子どもたちをいざなう豊かな体験活動の創造」のテーマの下に、子どもたちへの魅力あふれる贈り物で満ちあふれた学校を目指して、科学が好きな子どもを育てる教育活動の推進に取り組んでいるが、その実現を図る上で、いくつかの課題が明らかになってきている。

「知の総合化・実践化」を進める教育実践をどのように展開するか。

子どもたちに豊かな原体験の蓄積を目指す7つのプロジェクトをはじめ、各教科・総合的な学習の時間・道徳・特別活動で培った資質・能力有機的に関連させ、総合的に活用し実践できる力を育てる教育実践の展開をさらに模索していきたい。

各教科の授業の中で「科学が好きな子ども」の育成をどのように位置付し、関連を図るか。

素直で豊かな感性をベースとした論理的な思考力や表現力・自分なりの視点を持って根気強く追究する力・自己を見つめ直す態度など、「科学が好きな子ども」に求められる資質・能力は、理科はもちろんすべての教科の中で必要とされるものと考えられる。各教科の中で、教科目標と合わせ、「科学が好きな子ども」の姿を具体的に位置付け、関連を図りながら、その育成を図っていきたい。

生活科から総合へ向かう中での「問題解決の力」の育成をどう進めるか。

生活科と総合的な学習の時間の関連を十分に図り、子どもたちの発達をふまえて、問題解決の力の育成を進めたい。その一つの手だてとして、今後は、低学年からもキッズ・プロジェクトの取り組みを推進していきたい。ささやかではあっても子どもたちの自発的な企画・実践を積み重ねることによって、生活科から総合への関連を図り、問題解決の力を育成していきたい。

地域へのはたらきかけ・科学の力で地域をどのように変えていくかという課題への取り組みをどう進めるか。

地域と子どもたちとの出会いをコーディネートする学校の役割をさらに推進し、交流を密にする。このコーディネートによって、地域に住む人々との間で人材ネットワークを構成し、子どもの育ちを支援していきたい。また、「学校は次代を担う若者を共に育成してくれる場所」との地域の願いを受け止め、「科学が好きな子ども」の育成に真摯に取り組み、未来にはばたき地域を変えていく力を持った子どもたちを育てていきたい。

「科学が好きな子ども」を育てる指導者としての資質の向上・研修のあり方はどうあればよいか。

「科学が好きな子ども」を育てるには、子どもの感性に寄り添い、自然の変化に敏感な心を持った大人たちが「なぜ」を子どもと共有することが大切であると考えます。私たち自身の「センスオブワンダー」を磨き、「科学が好きな教師」としての成長を目指して、さらに努力していきたい。

花に水をやる教師の傍らを子どもが通る。足を止めて教師とともに花を見つめる子ども。「ぼくも。」と自ら手を取って水を注ぐ子どもにほほえみと共感を送りたい。その「ぼくも」が「ぼくは」になることを支援したい。花の様子が気になって休日にも学校に足を運ぶ子どもに、自立の輝きを見る。

科学が好きな子どもを育てることは、つまるところ、その子どもの生き方を豊かにすることだと考える。子どもたちが目を輝かせて登校し、一人一人の持ち味を十分に発揮し、学ぶ楽しさを実感できるような学校でありたいと願い、教育活動を進めてきた。本校の取り組みはささやかな一歩ではあるが、子どもたちの瞳の中に確かな手応えを得ている。

子どもは本来、育つべくしてこの世に生を得ている。その可能性を広げ、よりよい育ちを保証してやるのが大人の役目であり、教育の責務である。目の前の子どもたちに渡すことのできる理想的な贈り物は何かを求め続ける学校の姿とそこでの体験こそが、次代を担う子ども達を可能性豊かな、人間性豊かな大人に育てていく原体験になると信じて、明日からも教育活動を追究していきたい。

